

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 貿易統計(2006年4月)

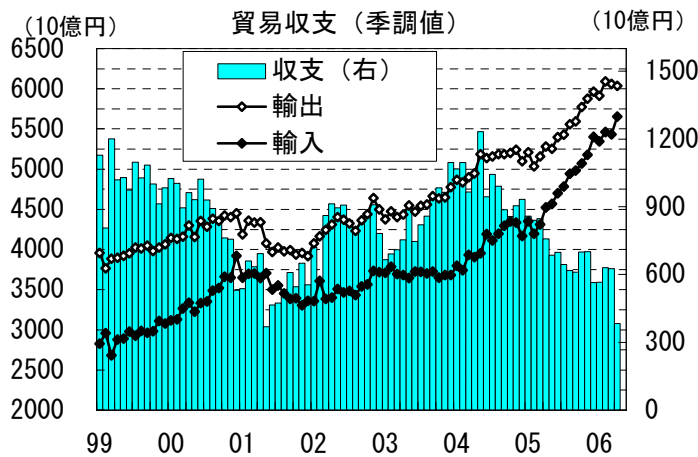
発表日2006年5月25日(木)

～貿易黒字額は16ヶ月連続で減少～

第一生命経済研究所 経済調査部

担当 副主任エコノミスト 長谷山 則昭

TEL : 03-5221-4525



(10億円)	季調値			原数値
	貿易収支	輸出	輸入	貿易収支
05年4月	759	5281	4522	948
5月	686	5253	4567	285
6月	698	5397	4698	858
7月	644	5429	4785	862
8月	617	5559	4942	103
9月	611	5592	4982	949
10月	701	5773	5072	818
11月	701	5878	5178	594
12月	565	5967	5402	908
06年1月	567	5914	5347	-354
2月	630	6091	5461	947
3月	626	6059	5433	970
4月	384	6038	5654	646

(出所: 貿易統計・財務省)

(出所: 貿易統計・財務省)

前年比	輸出金額	輸出価格	輸出数量指数				輸入金額	輸入価格	輸入数量指数			
			全体	対米	対EU	対アジア			全体	対米	対EU	対アジア
05年 1月	3.2	6.5	▲ 3.1	▲ 5.3	▲ 14.7	▲ 1.5	11.6	8.3	3.0	0.5	3.5	4.9
2月	1.7	6.2	▲ 4.3	1.1	▲ 6.9	▲ 4.0	11.6	5.9	5.3	5.1	▲ 3.5	12.2
3月	6.1	5.0	1.1	3.3	▲ 9.5	0.8	7.9	6.3	1.5	▲ 1.1	▲ 5.1	4.7
4月	7.8	9.3	▲ 1.4	0.0	▲ 2.5	▲ 2.0	13.0	13.1	▲ 0.0	▲ 3.7	2.5	2.7
5月	1.4	3.9	▲ 2.4	2.0	▲ 8.0	▲ 5.0	18.9	8.7	9.4	7.0	3.5	10.9
6月	3.6	3.0	0.5	2.4	▲ 8.9	▲ 0.6	11.4	9.2	2.0	0.9	▲ 2.3	6.0
7月	4.3	5.1	▲ 0.8	▲ 1.1	▲ 3.1	▲ 4.5	11.9	12.6	▲ 0.6	7.5	▲ 4.8	▲ 1.2
8月	9.1	6.7	2.2	3.1	▲ 2.1	1.3	21.5	11.4	9.1	9.2	6.6	12.5
9月	8.8	7.4	1.4	3.5	▲ 3.3	▲ 2.9	17.6	13.3	3.9	5.0	4.8	3.7
10月	8.0	5.5	2.4	3.8	▲ 1.7	▲ 1.4	17.9	15.3	2.3	▲ 13.9	0.5	7.3
11月	14.7	7.6	6.6	4.7	▲ 0.7	4.3	16.7	19.3	▲ 2.1	▲ 2.3	▲ 1.0	0.3
12月	17.5	10.6	6.2	6.4	▲ 1.9	3.4	27.4	24.8	2.1	10.8	▲ 1.2	3.8
06年1月	13.5	5.6	7.5	12.2	4.4	▲ 1.1	27.0	18.7	6.9	2.6	0.2	10.0
2月	20.7	5.3	14.6	8.5	1.6	15.9	30.3	23.7	5.4	6.9	5.7	3.9
3月	18.0	6.2	11.0	8.0	5.7	12.1	25.3	20.3	4.2	▲ 7.1	0.6	8.1
4月	11.2	4.7	6.2	8.4	▲ 0.2	6.6	20.2	14.7	4.8	▲ 15.4	▲ 2.0	11.1

○ 原油価格の高騰が続き、貿易黒字額は16ヶ月連続で減少

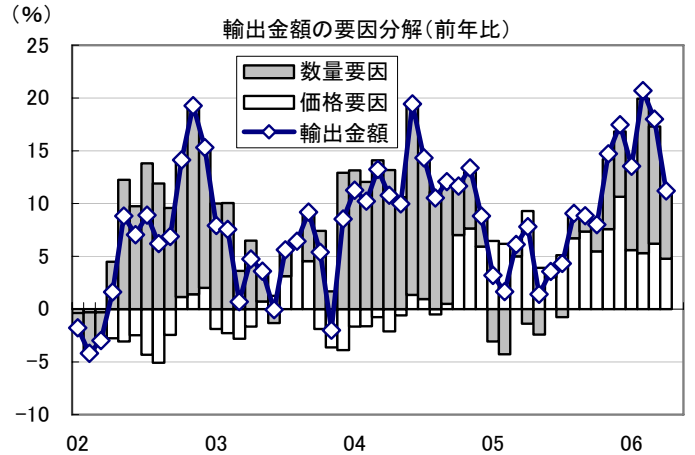
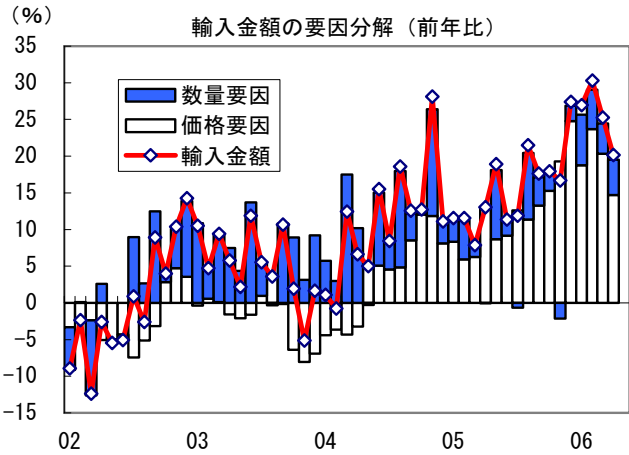
4月の貿易収支は6,462億円(原数値)、前年比▲31.8%と16ヶ月連続で減少した。原油価格の高騰が続いていることから輸入金額の伸び(前年比+20.2%)が輸出金額(同+11.2%)を上回っており、貿易黒字額は前年を下回る状況が続いている。原油及び粗油が輸入に占める割合は大きく、原油価格の上昇傾向が続けば輸入金額も増加しやすい。世界的な需要が強いことなどから当面は原油価格が急落していく可能性は低く、貿易黒字の減少傾向はしばらく続く可能性が高いだろう。

○ 輸出数量は伸びが鈍化したものの、増加傾向で推移

輸出を数量ベースで見ると、前年比+6.2%(前月同+11.1%)と伸び率が鈍化した。地域別にみると、米国向け(同+8.4%←前月同+8.0%)、アジア向け(同+6.6%←前月同+12.1%)、欧州向け(同

▲0.2%←前月同+5.7%)となっている。米国向けは増加テンポが拡大し、アジア向けについても伸び率は鈍化したものの、基調としては堅調である。EU向けは4ヶ月ぶりに減少したものの、ユーロ圏経済は回復傾向にあることを踏まえれば、特段心配する必要はないだろう。

財別にみれば、低燃費である日本車が人気なことから北米向けの自動車関連輸出が堅調である。加えて、産油国の経済は原油高の恩恵を受けて堅調なことから中東、ロシア向けの自動車輸出も好調だ。さらには、半導体等電子部品などのIT関連財の輸出も堅調に推移している。ただし、増加テンポが加速しているわけではないので、4月の電子部品・デバイス工業の生産や出荷は前月比で見れば、横ばい圏内の動きとなるだろう。



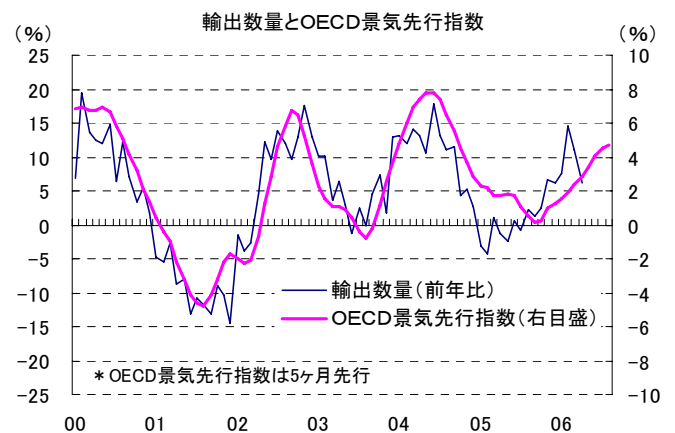
○ 現状程度の円高は特に問題ない

為替レートは足元では円高にやや振れたが、日銀短観（3月調査）の2006年度の想定為替レートは1ドル＝110.6円となっており、現状程度の円高では問題はないと考えられる。輸出企業の採算レートをみても1ドル＝104.5円となっているので、この水準を大幅に割り込むことがない限り輸出計画を変更する企業は少ない。また、貿易ウエイトで加重平均し物価変動を考慮した実質実効為替レートでは、過去に比べてなお円安水準となっていることから、最近の円高が輸出に及ぼす影響は限定的であろう。



○ 輸出入ともに先行きも増加傾向を辿る見込み

先行きについても、米国、アジアを中心として世界経済は底堅く推移すると予想され、先行指標であるOECD景気先行指数が改善傾向を辿っていることなどから判断すれば、当面、輸出は堅調に推移すると考えられる。06年半ば以降は、米国経済の減速によって輸出の増加ペースが鈍る可能性もあるが、その米国経済の減速は小幅にとどまる見込みであり、輸出が大幅に落ち込むことは回避できると考えられる。先行きも輸出は底堅く推移することが見込まれよう。一方、輸入



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

に関しても拡大傾向が続く可能性が高い。個人消費の回復や設備投資の増加など国内需要の回復により、今後も日本経済は安定成長を続けるとみられることから、輸入も増加傾向を辿ると判断する。